

2025

同友しずおか4



VOL.557

「入ってよかった」「続けてよかった」「誘ってよかった」「企業も地域もよくなった!」

私の逸品

アラビカコーヒー

コーヒーで地域を笑顔に
～経営課題から生まれた
オリジナル商品～



静岡県中小企業家同友会



中小企業家同友会とは

静岡同友会は1974年に71名の経営者が呼びかけあい、設立されました。約1,100名の経営者が、「経営体質の強化」「経営者の能力向上」「経営環境の改善」をめざし、活動しています。全国各地で開催される全国大会をはじめ、県全体で行う定時総会・全県経営フォーラム、また、経営課題別の専門委員会、県下11支部での活動、行政や関係諸団体との懇談、連携等、多岐に亘る活動をしています。

同友会3つの目的

1 よい会社をつくろう

同友会は、ひろく会員の経験と知識を交流して企業の自主的近代化と強じんな経営体質をつくることをめざします。

2 よい経営者になろう

同友会は、中小企業が自主的な努力によって、相互に資質を高め、知識を吸収し、これからの経営者に要求される総合的な能力を身につけることをめざします。

3 よい経営環境をつくろう

同友会は、他の中小企業団体とも提携して、中小企業をとりまく、社会・経済・政治的な環境を改善し、中小企業の経営を守り安定させ、日本経済の自主的・平和的な繁栄をめざします。

- 社長はいつも孤独
- 経営の成功体験しか聞けない
- 目の前の仕事に追われる毎日
- 指示待ち社員ばかり
- 経営の悩みを相談する仲間ができた
- 失敗談から勇気とヒントをもらえた
- 将来の会社のビジョンができた
- 自発的な社員が増えた

その答え、
同友会にありました。

会 員 募 集 中

経営者同士だからこそ話せる
悩み、解決へのヒント、将来への展望。
体験してみませんか？

静岡県中小企業家同友会 TEL/054-253-6130
〒420-0857 静岡市東区藤原町1-1-1 FAX/054-255-1120 Email/doyu@doyu.or.jp

◆静岡同友会 2025年ビジョン 「企業づくり・地域づくり・同友会づくり」

◆ 企業づくり ◆

私たちは、関わる全ての人が「成長」と「幸せ」を実感できる企業をつくります

◆ 地域づくり ◆

私たちは、中小企業と地域が手を取りあい、人々の幸せが見える地域をつくります

◆ 同友会づくり ◆

私たちは、企業と地域を守る経営者の^{きょうじ}矜持と努力を結集し、
学び・気づき・ワクワク溢れる活動を通して県下1500名会員を実現します

新会員のご紹介 (敬称略) 会員数1077名

氏名	社名・事業	所属支部	紹介者	氏名	社名・事業	所属支部	紹介者
あおき よしひろ 青木 敬博	(有)ダブリュー81 ホームページの制作、広告物の制作	伊東	守谷 匡司	なかがめ ゆうこ 仲亀 裕子	3peace design ホームページデザイン、グラフィックデザイン	富士宮	望月 則男
えぐち よし 江口 美乃	(株)アクリ 新築、リフォーム設計、買取再販業、移住や 物件探しからリフォームまでのトータルサポート	伊東	小林めぐみ	たけかわ じゅんや 竹川 隼矢	(株)四ツ葉ホーム 総合リフォーム、戸建て、集合住宅、 店舗等の改修工事一式	静岡	大滝 一成
やざき ひろたか 矢崎 弘隆	矢崎良夫税理士事務所 税務申告書作成、税務代理、税務相談 等	伊東	杉山 伸也	なかだ だい 中田 大地	(株)堤坂工務店 注文住宅の新築工事、リフォーム、 リノベーション、不動産売買	志太	塚本 和成
よしかわ けいいち 芳川 敬一	合同会社芳川商店 おはぎ専門店	伊東	三浦 大輔	まえもと たける 前本 武	新和工業 屋根、外壁施工、リフォーム、雨樋施工、補修	志太	大滝 一成
すずき けい 鈴木 敬	(株)夢先案内人 経営コンサルティング	御殿場	内海 隼人	ますだ ちよ 増田 千代	(株)OHANA 介護サービス 地域密着通所介護デイ サービスおはな	志太	大畑 邦明
おおすみ ちあき 大隅 千秋	(株)ジョイプラン 不動産売買、仲介、リフォーム新築、 建築全般	三島	秋山 敦	まつむら ひでお 松村 英雄	(有)一筋運輸 小口配送や貸切便、介護業界に特化 した求人・情報サイト運営	志太	松葉 秀介
ふじかわ たける 藤川 武	(有)藤川商店 資源となるスクラップを回収する等	沼津	中村 俊哉	すずき ひろたか 鈴木 大貴	(株)鈴高工務店 建築工事、土木工事、舗装工事、 造園工事、管工事、解体工事	中遠	北井 寛己
さえき たかし 佐伯 崇	佐伯労務管理事務所 社会保険労務士業	富士宮	石川 廣樹				

※新会員の写真は e.doyu 「ユーザ名簿」に掲載します。e.doyu からのご確認をお願い致します。



コーヒーで地域を笑顔に ～経営課題から生まれた オリジナル商品～

(株)アラビカコーヒー (沼津支部)

取締役 高村 憲央氏



取材陣と高村氏 (中央)

会社と店舗の歴史と強み

アラビカコーヒーは昭和49年創業で長泉町の焙煎工場と富士・沼津・三島・御殿場の4店舗を運営しています。富士の店舗は1999年にオープンし、今年で26年目を迎えます。コーヒーの販売だけでなく、お客様の要望を受けて半分をカフェスペースにし、ケーキセット、ランチセットと段階的にサービスを増やし、現在ではコーヒー教室もやっており教室は毎回20人近く集まる大人気のイベントになっています。また、カフェスペースも連日席が埋まるくらい人気です。富士の地域では自家焙煎の店舗として最大級だと自負しており、月2回増量セールでコーヒー豆が売り切れになる



ケーキセット

競争力の向上と魅力づくりが課題

ので、どんなに古くても焙煎2週間以内の新鮮なコーヒー豆しか扱っていないところが特徴だといえます。

なんと店舗ではケーキとコーヒーのセット800円という破格で販売しており、「本日のコーヒー」も400円

でおかわり自由となっている価格競争力が大人気の理由です。しかしながら、原材料も上がっている中、働く環境の整備や従業員のことを考えると価格を上げざるを得ない状況。価格と魅力を両立しながら、既存商品の価格を少し上げていくこと



4店舗を展開

と、オリジナル商品を開発することで対応しているそうです。オリジナル商品は以前から興味を持っていただそうですが、最低注文ロット数が大きくなかなか乗り出せなかったのが、今では小ロットでも作れるようになり、オリジナルのドリップコーヒーや自社コーヒーを加えたパウンドケーキや菓子「五家宝」を開発。現在は柿田川などの観光地に置けるようになり、自社の宣伝がわりに安く観光地に商品を置くことで大人気の商品になっているといえます。今後も自社焙煎コーヒーを活用したオリジナル商品を増やしていきたい、宣伝と自社販売を増やし、原材料高の時代を乗り切りたいと考えていると話します。

同友会入会からの成長

同友会に入って2年ほどが経



コーヒーチップ入り園芸野菜肥料

(株)アラビカコーヒー

〒417-0049 富士市緑町6-30 (富士店)

TEL: 0545-57-1800

URL: <https://www.arabicacoffee.co.jp/>

創立 1974年

社員数 18名 (パート含む)

入会年月 2023年4月

事業内容
・珈琲及び食品の販売、飲食店運営 (4店舗)
・珈琲豆の直販、ネット販売

取材・記事: 太田 喜貴氏
(株)キラガ・沼津支部
取材: 金子 昌宏氏
(株)ベストスタッフ・沼津支部

田村 雅彦氏
(株)AMURA・沼津支部

過。それまでは異業種交流会やほかの会に入っていたものの、会食が中心だったといえます。「同友会では学ぶ時間が多くあり、創業社長だけではなく2代目、3代目など自分と似た立場の人から考え方やアドバイスを聞けるので参考になる」と高村氏。会社として、今後オリジナル商品の充実と通販で地域以外にもファンを作っていきたいと話してくれました。

会員訪問記

地元の木材で地域の暮らしを守る
『地山地造(ちさんちぞう)』の家づくり

(有)藤井建築
代表取締役 藤井陽介(中遠支部)



大工としてのプライドと想いを込めた家づくり

25歳から大工の道へ

同社は、藤井氏の父藤井庸太郎氏が若かりし頃に大工の道へと進み、住み込み修行の後に1974年より個人事業にて創業、経営者として社会的な信用や従業員の雇用と福利厚生を考慮した結果、1990年に(有)藤井建築として法人化して現在に至ります。藤井氏は二代目の代表です。

父親が経営する家業のこともあり、藤井氏自身も高校卒業後は建築系の専門学校に進学しますが、最初の就職先は家業ではなく設計事務所での現場管理・監督業務に約3年従事、建築板金会社で約1年の現場を経験した後の2001年、藤井氏が25歳の時に(有)藤井建築へ入社します。学校卒業後から5年ほど一貫して建設業に携わってきましたが、特に大工は職人の世界であり、日本の伝統的な在来工法を探究する為には時間と経験が必要であることから、自身が25歳から大工の道へ進んだのは業界的にも遅く「今となつては15歳から大工を志しても良かったと思う」と藤井氏は言います。

同友会での学びと出会い

同友会には、(有)大橋商事 大橋徳久氏(中遠支部)の紹介により2016年5月に入会、翌年の2017年には第14期経営指針を創る会を受講します。そこで経営者としてあるべき姿を目の当たりにした藤井氏は、経営理念の必



丁寧な施工を心掛ける

要性を痛感し、社是として『家創りは温故知新の人創り』という言葉に辿り着きました。

経営指針を創る会の受講当初から、10年ビジョンについても明確にイメージすることは出来ませんでした。修了後から現在に至るまでの期間、同友会での様々な出会いや学びを得る中で、経営者としての責務や従業員との関係性、取引先やお客様との関係性に至るまで、自社に関わる全てが大事であると改めて気付かれます。その結果、冒頭の『地山地造』が新たなビジョンとして誕生しました。

家創りは温故知新の人創り

もともとは、藤井氏の同級生が浜松市天竜区で林業に携わっていたことがきっかけでしたが「自分



地元の山の木材で地山地造の家づくり



大工としてのスタートを切った卒業制作

(有)藤井建築

〒438-0805 磐田市池田1153

TEL: 0538-34-4197

URL: <https://fujii-kenchiku.com/>

創立 1976年

社員数 2名

入会年月 2016年 5月

事業内容 一般住宅建設、増改築・リフォーム、新築

取材・記事 兼古東志浩氏

(株)アイビス・中遠支部

会員訪問記

農業とパーソナルトレーニングを結び付け、
地域で健康をサポート

やまたつファーム

山下達也氏（浜松支部）



地域の栽培環境を生かして
玉ねぎを生産

山下氏が農業に関わるようになったきっかけは弟様が農業を始めたことでした。家の手伝いの延長として作業を手伝う中で、自然と就農に至りました。事業の中心は玉ねぎの生産で、白玉ねぎ、黄玉ねぎ、紫玉ねぎの3つの品種の生産です。特に特徴的なのは、浜

松市の篠原地区という砂地で栽培していることです。この地域の水はけの良い砂地が玉ねぎ栽培にぴったりで、品質の高い作物が育ちます。白玉ねぎはみずみずしくて甘みが強く、サラダや生食に最高。黄玉ねぎは加熱すると深いコクが出て煮込み料理に最適です。紫玉ねぎは鮮やかな色味とほのかな辛みが魅力で料理に彩りを添えてくれます。黄玉ねぎ、紫玉ねぎはどちらも生でも美味しく食べることができます。このように、それぞれの特性を活かした玉ねぎを丁寧に育て、地域の食卓に届けています。

山下氏は農業とは別に、パーソナルトレーナーとしても活躍しています。この道に進んだのは、農閑期に空いた時間を何かで活用したいと考えたことがきっかけでした。趣味だったトレーニングを活かそうと考えたところ、「トレーニングのやり方を教えてほし

い」と頼まれたのをきっかけに、本格的に勉強を始め、NESTA-PTの資格を取得しました。趣味が仕事に繋がり、「パーソナルトレーナーも本当にやりがいを感じている」と同氏は言います。

生産に止まらない農業への
考え方の変化

山下氏が入会したきっかけは、高校時代の同級生で同友会メンバーの大杉卓也氏（大杉卓也行政書士事務所）からの紹介でした。最初はオブザーバーとして例会に参加。農業はどうしても閉塞的になりがちで、外の世界とつながる機会が少ないと感じていた山下氏にとって、異業種の経営者たちと話せる場は新鮮だったと言います。他業種の経営者の多様な考え方や経験に触れるうちに「ここなら視野が広がる」と入会を決めました。山下氏は同友会に入会してから、農業を「単に作る」だけではなく、経営として捉える視点を学びました。作物を生産するだけでは持続的な成長は難しく、経営として利益を生み出しながら地域に貢献していく必要があることを実感。自社事業における現状の問題点を見つめ直す機会も増えました。生産効率の課題、市場開拓の難しさ、人手不足など、多くの課題がある中で、異業種の経営者の意見を聞くことで、新たな解決策のヒントとともに、経営者としての考え方を学んだと言います。「短期的な利益だけでなく、長期的なビジョンを持ち、事業の方向性を明確に



出荷の様子

今後の展望

～農業とパーソナルトレーニングで
地域の健康を支える～

することの大切さを知りました。それらを実践していきたい」と山下氏は語りました。

山下氏は地域全体を生産地として認知してもらえよう玉ねぎの生産を広げブランディングをしていくこと、食と運動を通じて関わる人に健康と自信を持てる美しい身体を提供することを目指しています。「浜松市篠原地区の砂地で育まれた玉ねぎ生産を通じて地域の特産品としての地位を築きつつ、パーソナルトレーニングで健康をサポートしていきたい。地域への貢献と個人のウェルビーイングを両立させるこのビジョンは、私に



パーソナルトレーナー
としても活躍



新たなねぎ

やまたつファーム

〒431-0203

浜松市中央区馬郡町1510-1

TEL：080-6366-8683

URL：https://yamatatsufarm.com

創立 2017年1月

社員数 1名

入会年月 2025年2月

事業内容 玉ねぎ生産・販売

取材・記事：花井純氏
（スペースプランニング㈱・浜松支部）
取材：秋山英正氏
（浜松資材㈱・浜松支部）

大杉卓也氏
（大杉卓也行政書士事務所・浜松支部）

久米幹夫氏
（㈱アスタワン・浜松支部）

三島一浩氏
（サンレイ食品㈱・浜松支部）

松下公子氏
（松下不動産・浜松支部）

入会候補者100名プロジェクトまとめ 会員増強は企業家ができる最大の地域貢献

「入会候補者100名PJ」は、2025年1～3月の3か月間、入会候補のオブザーバーを「1支部1例会あたり3名目標×11支部×3ヶ月」⇒計99名+1名「100名」達成を全支部一丸となつてめざすプロジェクトです。結果として、わずかに目標には届きませんでした。3月末で合計81名の未来会員の皆さんにご参加いただき、期間中で32名にご入会をいただきました。ご参加いただいた皆さん、紹介いただいた皆さんありがとうございます。紹介いただいた！このページでは期間中の各支部で行われた例会や仲間づくりの取り組みをご紹介します！

沼津支部は会員・ゲストあわせて100名例会の達成！

沼津支部2月例会は、約10年ぶりに登壇するあした葉グループ代表取締役の望月大樹氏を報告者に迎え、前回参加者90名を超える参加者100名例会を目指し、会員で声掛けを行いました。当日は会場・ZOOMあわせて100名を超える参加者が集い、ゲストも驚異の50名参加！活気あふれる例会となりました。

富士支部・伊東支部例会でも多数ゲスト参加、入会表明も！

2月19日に伊東支部例会を

開催、6名の未来会員（ゲスト）を含む27名が参加しました。（株）スマートステイ代表取締役の足達聖也氏が報告し、最後には本音で自身の想いを語りました。ゲストの入会表明もあり、あたたかな支部の雰囲気を感じられる例会となりました。2月20日の富士支部例会では「100年企業目前の悩みと挑戦」をテーマに（株）鈴剛鈴木滋敏氏が報告し、未来会員1名含む27名が参加しました。

静岡で2名、浜松で3名の未来会員が参加！

3月11日（火）の静岡例会は約100名が参加し、2名の入会候補者に参加いただきました。報告は静岡支部長や経営労働委員長・経営指針を創る会会長を務めた奥谷卓史氏（株）巴電業社）が「自ら学ぶ同友会で私も会社も変わった」をテーマに開催。3月13日（木）の浜松例会は約20名が参加し、3名の入会候補者に参加いただきました。報告は伊藤嘉浩氏（プルデンシャル生命保険（株）浜松支社）が登壇し、「生保の力を知ろう」をテーマに開催しました。

「入って・続けて・誘ってよかった！」
同友会の輪を広げましょう！

2024年4月に新年度をスタートし、11月には静岡同友会50周年記念事業「NEXT50フォーラム」を盛大に開催。静岡同友会にとっても大きな節目となりました。仲間づくりにおいては、3月末までに76名の方にご入会、53名の会員の皆さんからご紹介をいただきました。入会いただいた皆さん、ご紹介いただいた皆さん誠にありがとうございます。

2025年度は「NEXT50」に向けての第一歩となります。「入ってよかった」「続けてよかった」「誘ってよかった」と実感できる同友会活動を各支部、専門委員会、小グループ活動で広げ、自社と地域を発展させていきたいと思います。引き続きお知り合いの経営者・後継者にお声掛けいただきますようお願いいたします！

2024 年度末会員数

支部	会員数
伊 東	31
御 殿 場	124
三 島	37
沼 津	111
富 士	66
富 士 宮	173
静 岡	239
志 太	84
榛 太 南	135
中 遠	21
浜 松	56
合 計	1077

連合静岡との懇談会

経営者・組合双方の立場からより良い労働環境を考える

3月18日(火) 同友会会議室

静岡県中小企業家同友会と連合静岡との懇談会が3月18日(火) 同友会会議室にて開催され、連合静岡から角山会長をはじめ5名、静岡同友会から遠藤会長、井上代表、松葉代表をはじめ6名、計11名が出席しました。連合静岡からの「2025春季生活闘争に関する要請」では、①産業・企業、経済・社会の活力の原動力となる「人への投資」を起点とし、すべての働く人の持続的な生活向上をはかるため5%以上(定昇2%、ベースアップ3%以上)の賃上げ、中小労組においては企業規模格差は正1%以上を加えた6%以上(18,000円以上)の賃上げ、②内閣官房・公正取引委員会が策定した「労務費の適切な転嫁のための価格交渉に関する指針12の行動指針」のさらなる周知と「取引適正化・価格転嫁に関するチェックリスト」を活用した自社の取り組み状況の点検と改善、③「パートナーシップ構築宣言」のさらなる拡大と実効性強化に向けた周知を働きかけに関する要請がありました。

懇談会では、要請でも触れられた各社の賃上げを含めた労働環境改善や労務費の適切な価格転嫁に関する各社の取り組み状況について同友会から報告。「賃上げしたい企業は多いが、簡単ではないのも事実。物

価上昇をベースにした価格交渉ができるようにしていきたい」「賃上げはしているが物価高騰に追いつかず、社員が実感を持ってない」「最低賃金の上昇は企業にとって大きな課題になっている」など各社の状況が共有されました。最後に井上代表理事から「社員は、企業発展のパートナーであり良好な関係性を築くことが労働生産性の向上に繋がる」とあいさつがあり閉会となりました。



角山会長(右)から要請書を受け取る井上代表(左)

障がい者問題委員会オープン勉強会 多様な方達と一緒に働くことが当たり前の企業を目指して

3月18日(火) 同友会会議室 16名

障がい者問題委員会では毎年、様々なテーマを設定しオープン勉強会を開催しています。2024年度は「理解の輪を広める・深める」をテーマに様々な理由から働くことが難しい人々と繋がり、彼ら、彼女らの社会参加の一步となる取り組みを行っています。また委員会名称を活動内容に沿ったものに変えるため約1年間かけ協議し、2025年度から「にじいろ共生委員会」と名称変更することになりました。

今回のオープン勉強会は「LGBTQ」をテーマに志太支部会員企業である(株)吉村の長谷川智巳氏に報告者としてご登壇いただきました。(株)吉村は「多様な方達と一緒に働くことが当たり前の企業になりたい」と社内

で社内障がい者が働きやすい環境を支援してきました。障がい者雇用をする中で、支援学校から「LGBTQの方の採用を行っているかないか」と相談を受けたことがきっかけで採用を決意。カミングアウトしている、していないに限らず、10人に1人はLGBTQの方がいると言われています。今回のテーマであるLGBTQは障がい者ではありませんが、精神的に苦しんでいることを原因に性同一性障害となることもあります。差別を生まないために、普段は何気なく使っている言葉でも気をつけてほしいものがあると話がありました。また、同社では障がい者雇用を進める中で「やらさ

れ感」「罰金を払いたくないだけでは」と社内でも後ろ向きな意見があったことから知らないことが多い中でみんなが一緒に働くイメージを持てるよう勉強会を開催するなど工夫をしながら雇用していると報告がありました。

グループ討論では、「遠く感じていたLGBTQについて身近なことだと知った」「理解を高めることがまず一歩だ」「ALLY(アライ、LGBTQの課題解決に一緒に取り組む人)となれるようにしていきたい」と(株)吉村の実践から学び、誰もが輝ける社会を作る一歩としてLGBTQへの理解を深める機会となりました。



多様な人達が活躍できる企業づくりを学ぶ

4月・5月

DOYU CALENDAR

4月16日(水)～5月15日(木)

4月 16日(水)	伊東総会 (18:30 ひぐらし会館) 三島総会 (18:30 三島商工会議所) 志太総会 (18:30 小杉苑)
17日(木)	中遠総会 (19:00 割烹・食事処 辻菊) 富士総会 (19:00 ロゼシアター4F) 榛南総会 (18:00 うおとも)
18日(金)	浜松総会 (19:00 浜松市民協働センター)
22日(火)	県組織増強委員会 (18:00 事務局&ZOOM) 県例会企画委員会 (18:00 ZOOM)
23日(水)	第3回フォーラム実行委員会 (18:00 ZOOM)
24日(木)	県理事会 (15:00 同友会事務局&ZOOM)
25日(金)	沼津総会 (18:00 沼津リバーサイドホテル 4階)
28日(月)	県政策委員会 (18:00 同友会事務局&ZOOM)

5月 1日(木)	正副代表理事会 (15:00 同友会事務局&ZOOM)
7日(水)	フォーラム正副 (17:00 ZOOM) 県青年部連絡会 (19:00 同友会事務局&ZOOM)
12日(月)	第52回県定時総会 (15:00 グランディエール ブケ トーカイ (静岡市))
13日(火)	静岡例会 (19:00 ペガサート)
14日(水)	御殿場例会 (19:00 エピ・スクエア)
15日(木)	中遠例会 (19:00 ワークピア磐田) 榛南例会 (18:45 きてご榛原)

《 あなたのスケジュールノートに
必要事項をご記入ください 》



同友会オリエンテーション【パートⅢ】

同友会を使い倒そう!～そうだ。そんな時、同友会があるじゃないか～

「社員と共に経営指針の確立をめざす」

3月28日(金) 参加: 17名 同友会事務局会議室

「同友会らしい企業づくり」をテーマに全3シリーズで開催した2024年度最後の同友会オリエンテーションでは、大滝一成氏(旭工業㈱・静岡支部)より「社員と共に経営指針の確立をめざす」をテーマに、同友会入会からの自身の変化を報告いただきました。大滝氏は解体業を2014年に起業し、2024年3月に同友会に入会。すぐに第21期経営指針を創る会を受講し、約半年間をかけ経営指針を成文化しました。「解体業にもっと本気を出してほしい」と社員から言われたことで、自社や社員と向き合えていなかったことに気づき、他責から自責へと考え方が変わったと当時を振り返ります。現在は『企業変革支援プログラムver.2』に社員と共に取り組んでいる大滝氏。社員の声を聞くことを心がけ、「社員と共に」経営指針の確立を目指します。最後に「同友会は答えを与えてくれるものではない。気づきを得て、自分でつかみとることが大事」と伝えました。グループ討論では「社長の想いは社員に伝わっていますか?」をテーマに、経営理念の浸透や社員と共に成長できる企業づくりについて討論を深めました。



大滝一成氏